

きん じょう てん か 錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
12月20日発行 NO.28
文責 出崎 友英

不器用の一心

2年生が12月12日から修学旅行に行きました。

『過去から未来へ 繋げよう 平和・歴史・絆』をテーマに掲げて、広島、京都、奈良を訪ねる2泊3日の旅でした。

今回の修学旅行で訪れた薬師寺の金堂や西塔の再建に関わるなど、日本を代表する宮大工の小川三夫さんの話を紹介します。

小川さんは高校の修学旅行で訪れた法隆寺の五重塔に魅了されました。高校卒業後、宮大工になりたいという志を持って、法隆寺専属の宮大工西岡常一棟梁に弟子入りしたいとその門を叩きますが、願い叶わず断られます。

仏壇屋などで修行を重ね、22歳で再び西岡棟梁に弟子入りを申し出て、西岡棟梁のただ1人の内弟子になります。

修行時代、小川さんは西岡棟梁から一枚のかんなくずを渡されます。そのかんなくずは向こうが透けて見えるほど薄かったのです。小川さんはそれをガラス窓に貼り付けて、毎日眺めながら、同じようなかんなくずができるまで、毎日毎日かんなをかけては、かんなの刃を研ぎ続けたそうです。➤



小川さんの元には、宮大工になりたいという若者が1年間に300人も応募してきます。その中でわずか2、3人しか弟子にはなれません。

「どんな基準で弟子を選ぶのか？」という質問に、小川さんは「人間は器用な人と不器用な人がいます。器用な人は仕事を早く覚えてきれいに仕事をやるが、仕事のコツをつかまないうちに先に進んでしまいがちです。その点、不器用な人は進むのは遅いけどコツコツと納得いくまでやる人が多いのです。だから、最初はなかなかうまくいかなくても何かをきっかけにコツをつかんだら、そこからググッと伸びます。

だから私は、器用な人か不器用な人かといえば、不器用な人を弟子にするようにしています。宮大工という仕事は、うまいか下手なのかよりも、一生懸命にうそいつわりのない仕事をしなければなりません。ひとつのものを成し遂げるために10年、20年と仕事をするのだから不器用でもただひたすら一途にやる人でないと宮大工には向きません。大切なのは、『不器用の一心』なのです。」とされています。

最初は上手にはできなくても、誠実にコツコツと粘り強くやり続けていくことでしっかり身につくものがある。

そうやって身につけたものこそ、本物だということだと思ふのです。

2年生の修学旅行

2年生は12月12日(木)から2泊3日で広島・京都・奈良方面へ修学旅行に行きました。広島の平和祈念公園では、これまでの平和学習での学びをもとに平和集会を行い、構成詩や歌と手話で平和の思いを表現するなど、生徒の頑張っている姿が多く見られて、とても充実した3日間でした。

この3日間でよりお互いの絆がより強くなったことだと思います。修学旅行の経験・学びを、これからの生活に生かしてくれることを強く期待しています。



◆お知らせです。

○12月15日(日)、健軍神社参道沿いの花苗植え活動があり、生徒会代表の皆さんと先生方が参加されました。地区の自治会で準備いただいた花苗を手分けして植えてきました。春が来て色とりどりのきれいな花が咲きほこるのが楽しみです。参加した皆さん、おつかれさまでした。



○12月15日(日)、「第20回森林のアートギャラリー」の表彰式が九州森林管理局で行われ、美術部2年生が優秀賞を受賞しました。表彰式では作品への思いや制作の感想もしっかり発表し、笑顔が輝いていました。美術部の皆さん、おめでとうございます。



私たちの最大の弱点はあきらめることにある。
「先生のコトバ集」より